

移動間仕切（スライディングドア）

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和4年版20章2節に規定する移動間仕切とし、主として一般床舎用とする。

2. 品質・性能等

- （1）品質・性能について、「評価内容（別紙）」の項目を確認している。
- （2）主要な資材について、材質および資材メーカーから申請者の製造所への納入ルートを確認している。
- （3）性能について、実施要領に規定する試験機関による試験結果等で確認している。

3. 評価名簿詳細事項

材料のパネル圧着装置の操作方法、遮音性能の詳細は、「評価名簿詳細事項」として掲載している。

項目		品質・性能	備考
パネル	表面材	JIS A 6512 の表 9 またはこれと同等以上の品質・性能を有し、かつ、接触腐食をおこさないものまたは防食処理を施したものとする。	
	心材	同上	
	フレーム材	同上	
	幅木・笠木	同上	
	補強材	同上	
材料	ハンガーレール	同上	
	吊り車 [表示項目]	[申請者の規定による。]	
	吊りボルト [表示項目]	[申請者の規定による。]	
	壁見切り金物 [表示項目]	[申請者の規定による。]	
パネル 圧接装置 [表示項目]	接天・接床装置	[申請者の規定による。]	
	接壁装置	[申請者の規定による。]	
	召し合わせ部分	[申請者の規定による。]	
品質	パネル の外観	欠点	外形に使用上支障のある反り、曲り、ねじれ、その他の変形がなく、また、表面に美観上のきず、汚れなどがないこと。
		安全性	人体または衣服の触れるおそれのある部分には、鋭い突起などがなく安全であること。
		塗装面	光沢・色調が均等で、塗りむら、たれなどがないこと。
	パネル	合板、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材および壁紙は、ホルムアルデヒドの放散量を F☆☆☆☆とする。	
	パネルの保温材、緩衝材、断熱材	ホルムアルデヒドの放散量を F☆☆☆☆とし、スチレンを放散しないか、極めて少ないものとすること。	
	接着剤	フタル酸ジ- <i>n</i> -ブチルおよびフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒドの放散量を F☆☆☆☆とし、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンは放散しないか、極めて少ないものとすること。	
	塗料	ホルムアルデヒドの放散量を F☆☆☆☆とし、トルエン、キシレン、エチルベンゼンは放散しないか、極めて少ないものとすること。	

項目			品質・性能	備考
寸法等 パネルの製作寸法の許容差 (mm) [表示項目]	幅	[申請者の規定による。]		
	高さ	[申請者の規定による。]		
	対角寸法	[申請者の規定による。]		
	厚さ	[申請者の規定による。]		
性能	パネル（普通パネル）の操作性 (初動力) (N)	98以下		
	パネル圧接装置の耐久性	パネル圧接装置に異常がないこと。		
	レールの耐久性	レールに異常がないこと。		
	吊り車の耐久性	吊り車の操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないこと。		
	吊りボルトの引張強度	1本にかかる荷重の15倍以上の引張強度があること。		
	ランナー（吊り車・吊りボルト・パネル接合部）の引張強度	普通パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚を使用するランナーの数で除した値以上の強度があること。		
	耐衝撃性能 構造部材	折れ・曲りの異常がなく、表面の割れ、はがれのないこと。		
		接天・接床部 外れないこと。また、多少のずれがあっても、圧接装置の調整で元に戻せること。		
	遮音性能 [付帯性能]	[申請者の規定による。]		
試験方法	試験体、試験方法等は、別紙「移動間仕切り（スライディングドア）の試験について」による。			

(参考) JIS A 6512 「表9-材料」

材料	規格
鋼	JIS G 3101、JIS G 3131、JIS G 3141、JIS G 3302、JIS G 3312、JIS G 3313、JIS K 6744
ステンレス鋼	JIS G 4304、JIS G 4305
アルミニウム合金	JIS H 4000、JIS H 4100
ガラス	JIS R 3202、JIS R 3203、JIS R 3204、JIS R 3205、JIS R 3206、JIS R 3208、JIS R 3209
ボード	JIS A 5905、JIS A 5908、JIS A 6901
木材・合板	日本農林規格 素材、集成材、合板
その他	JIS A 6931、JIS A 9504、JIS A 9511

移動間仕切り(スライディングドア)の試験について

1. パネルの操作性試験

- (1) 試験体は1試験体とし、申請品の中で製作寸法、重量が最大のものとする。
- (2) 試験は、直線レールを水平に設置し、吊り車に最大荷重の実物大のパネルを吊り、パネル下端から1mの位置で押して（または引張って）、移動方向にパネルが動き始める時の力 {初動力 N (kgf)} を測定する。

2. パネル圧接装置の耐久性試験

- (1) 試験体は1試験体とし、申請品の中で重量が最小のものとする。
- (2) 試験体は、3枚で幅2.7m以上になるよう、パネルを実際の使用状態に組み立てる（図-1参照）。
- (3) 試験は、センターパネルで実施することとし、通常の使用方法による操作で、固定・解除を7,500回行う。
- (4) パネル圧接装置の耐久性試験後に、耐衝撃試験を実施する。

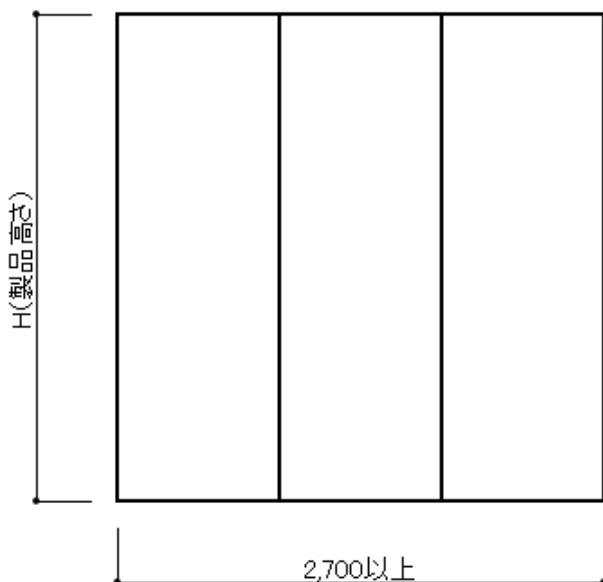


図-1

3. レールの耐久性試験

- (1) 試験体は1試験体とし、申請品の中で製作寸法、重量が最大のものとする。
- (2) 試験は、直線レールを水平に設置し、直線レールに沿って申請品のパネルまたはそれに相当する質量を積載して、往復させる（図-2参照）。
- (2) この時の移動距離は、吊り車2個が通過する部分が1m以上となるように設置し、吊り車2個の通貨回数を30,000回以上とする。なお、試験速度は、毎分15m以上とする。

4. 吊り車の耐久性試験

- (1) 試験体は1試験体とし、申請品の中で製作寸法、重量が最大のものとする。
- (2) 試験は、直線レールを水平に設置し、直線レールに沿って申請品のパネルまたはそれに相当する質量を積載して、移動させる（図-2参照）。
- (3) この時の移動距離は、総合走行距離が60kmになるまで行う。

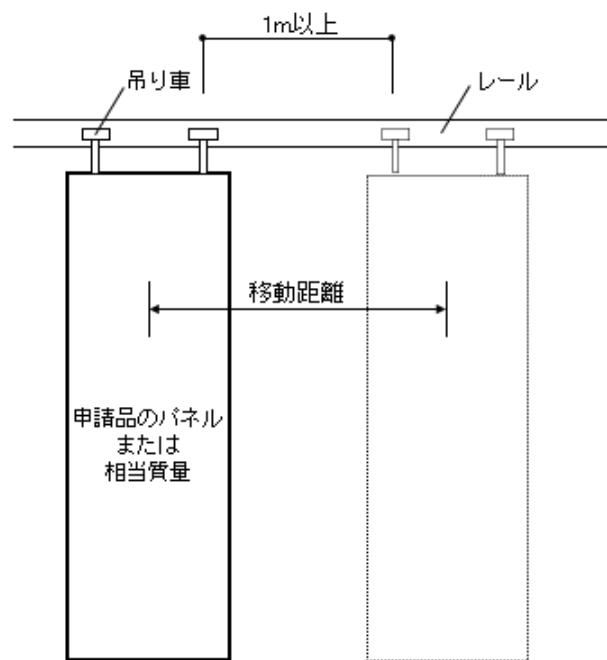


図-2

5. 吊りボルトの引張強度試験

JIS B 1051 による。

6. ランナー（吊り車、吊りボルトおよびパネル接合部）の引張強度

- (1) 試験体については、レールを含めた試験体とする。レール寸法は長さ 600 mm以上とし、レールのセンターに吊りボルトが取り付くものとする（図-3 参照）。試験体の数は、パネルおよびランナーの 1 組合わせについて 1 体とする。
- (2) レールと天井（梁）相当材の取り付けは、実情に即したものとする。（各社取り付け基準による。）

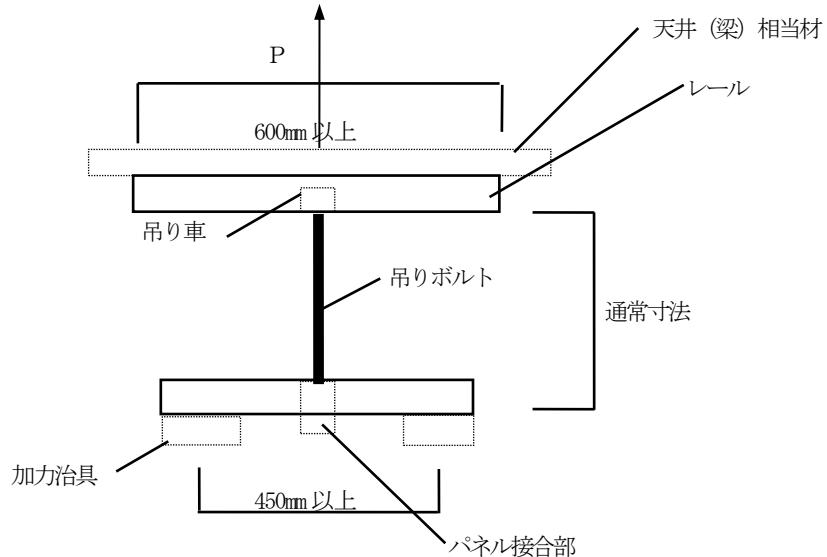


図-3

7. 耐衝撃性試験

- (1) 試験体は1試験体とし、申請品の中で重量が最小のものとする。
- (2) 試験体は、3枚で幅2.7m以上になるよう、パネルを実際の使用状態に組み立てる（図-4参照）。

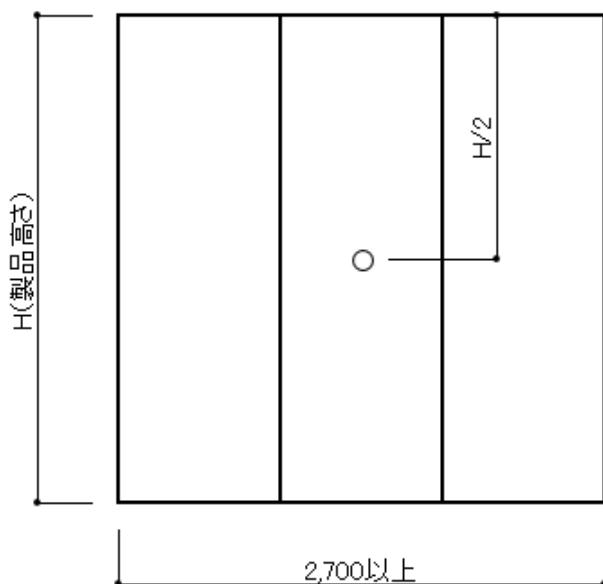


図-4

- (3) 衝撃体は、JIS A 6512の「8.1衝撃試験」の「8.1.2衝撃体」の「b) 質量50kgの衝撃体（軟らかい大きな物体の衝撃体）」とする。
- (4) 試験は、JIS A 6512の「8.1衝撃試験」の「8.1.3試験方法」の「b) 質量50kgの衝撃試験（軟らかい大きな物体の衝撃体による衝撃試験）」に準じて行う。
- (5) 試験終了後、試験体の走行試験（走行距離3m）を実施し、走行に異常のないことを確認する。
- (6) 床の仕上げについては、コンクリート床で実施する。

8. 遮音性能試験

- (1) 申請品の遮音性能が、複数ある場合には透過損失36dB以上と36dB未満に区分けし、2種類の試験体とする。
- (2) 試験は、JIS A 1416に規定する試験方法またはJIS A 1441-1による。
- (3) 遮音性能試験は、社内試験でも可とする。